

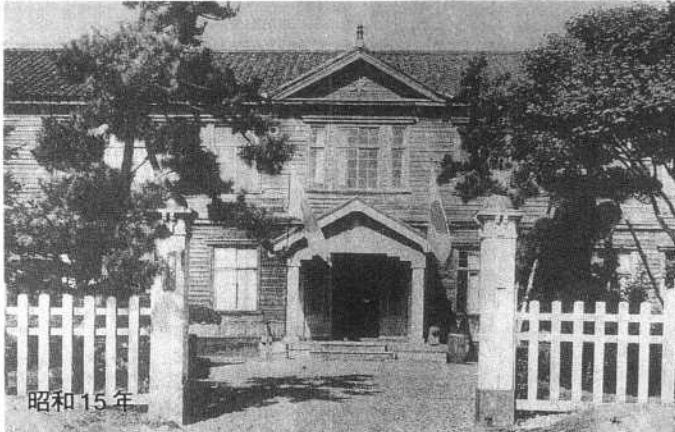
東京白楊だより

第18号
平成7.7.20



白楊ヶ丘同窓会東京支部

旧制函館中学校
函館中部高等学校



昭和15年



平成6年



函中創立百年。ふだん忙しく暮らしている人も、何かしら我が母校の歴史に感慨を覚えるのではないのでしょうか。そしてまた、現在の人生につながる示唆を、恩師、先輩から受けた方も多いことと思います。

人はそれぞれにチャンスというものがあります。私の場合将棋でした。敗戦で日本人が目標を失っている時、とにかく打ち込めるものがあつたのは幸運でした。しかし、棋士になるうとはあまり思っていない

母校創立100年に思う

何気ないひと言の重み

白楊ヶ丘同窓会東京支部長
52期(昭和25年卒)

二上 達也

ませんでした。もうちよつと学問に励んで教師にでもなれば……と考えていました。ところが毎日のような将棋会所通いです。読む本は棋書ばかりで、手に入らないものは友人から借りて写しました。腕前はぐんぐん上がり、夏に八級の認定を受けて、翌年の新年大会では優勝して初段になるスピードです。これで面白くないはずはありません。

かした言い方だったと記憶します。しかし、畏怖すべき先輩に「強うなる」と言われたからには奮い立たないわけはありません。そうした何気ない一言が、人の人生を左右するきっかけになるのかも知れません。

(日本将棋連盟会長)

すのはおぼつかない状態でした。担任の先生から苦言を言われましたが、たまたま私が将棋を指しているのを見た同じ先生から、「いつも小さくなって目立たないのに将棋盤の前では大きく見える」と言われました。世の中、自分の力では量り知れない動きがあるものですね。私には、その一言が意思を決定づける言葉になりました。

プロ入りしてからも順調に昇進できましたが、私の持つ技量や努力以上に恩師や先輩に恵まれていた気がしました。私が四段になった時、さらに自信をもたらず言葉がありました。当時、日の出の勢い、第一人者の升田さんが、ふと私の縮めているネクタイに目をとめて「この子は強うなる」と言ってくれたのです。よく見れば升田さんは、私のと似たような色柄のネクタイを締めていました。多分に冗談め

函中 100年 伝統と実績生かして 新世紀への飛翔を

函館中部高等学校長 高橋國雄



白楊ヶ丘同窓会東京支部会員の皆様には、函中に対する熱い母校愛のもと、日ごろ温かいご支援と激励を賜り、心より感謝申し上げます。

函中の創立百周年という意義深い年に静内高校より赴任し、重い責任を感じていますが、その伝統と輝かしい実績を汚さないように全力を傾ける所存ですので、よろしくお願い申し上げます。

また、来る十月中旬には、協賛会などのご支援・ご協力のもと、創立百周年の大慶事にふさわしい別記の事業を実施しますので、白楊ヶ丘同窓会東京支部の皆様

は、是非ご来臨の栄を賜りますようお願い申し上げます。

さて、いま函中は、昨年竣工した瀟洒にして重厚な威容を誇る白楊ヶ丘パルテノンといわれる新校舎のもと、「新世紀への飛翔！」に向けた新たな函中の構築に挑んでおり、その状況や所見の一端を申し述べさせていただきます。

第一は、一大エポックを築く創立百周年記念事業を成功させるため、組織的に全力を挙げていることです。協賛会組織は、総務、事業、財務の各委員会で構成されていますが、その中に教職員をきめ細かく配置し、その事業の推進に

万全を期しております。

記念事業推進の意義は、それ自体に目的があるのではなく、北海道、いな日本の函中としての偉大な歩みや誇りを確認するとともに、在校生諸君や教職員が新世紀に向けて、何をなすべきか、如何にあるべきかを模索し、新たな実践に挑む出発点にすることと思っております。

第二は、名門としての輝かしい伝統を守りつつ、時代の変化に対応する新たな函中イズムを確立し、新時代の高校教育のモデルを構築することにあります。その柱は、質実剛健の白楊魂の

育成、大進学校としての実績の確保、社会的資質の育成、国際理解教育の推進、創造力の育成であります。

つまり、グローバルな考え方や人間としての在り方・生き方を踏まえつつ、自主的に粘り強く努力して、徳・知・体の調和のとれた全人的な人間形成のできる生徒の育成を図ることあります。

そのためには、教職員自らが豊かな人間性や変化に柔軟に対応する適応力、創造力、強靱な体、国

百周年の里帰りは日本航空で

函中創立百周年事業への参加をかねて、ご夫婦、親子あるいは友人と一緒に「百周年記念里帰り」を計画してはいかががでしょうか。JALグループのジャパンツアーシステム(株)では、日本航空で行く特別協賛格安ツアー(航空券ブ

際感覚などを磨くとともに、生徒に対し「強い意志」「知的探究心」そして「思いやりの心」「日本伝統文化の尊重と国際理解」の大切さなどを教えていく必要があります。

最後になりましたが、白楊ヶ丘同窓会東京支部会員の皆様の日ごろのご支援に重ねて感謝申し上げます。ご健勝とご活躍をご祈念申し上げますとともに、今後ともご教示並びにご協力を賜りますようお願い申し上げます。

100周年記念事業(予定)一覧

●スローガン(看板)

「慶祝! 函中創立100周年・新世紀への飛翔!」
「伸びゆけ白楊! 輝く100年の心を新世紀へ」

●前々日事業(10月12日/函館市民会館)

- ・白楊吹奏楽団第31回定期演奏会
- ・白楊画会展

●前日事業(10月13日/中部高校体育館)

- ・第1部 記念講演(10:00~11:30)
講師: 澤地 久枝氏(作家)
- ・第2部 芸術鑑賞(13:00~14:30)

①創立100周年函中賛歌披露

函中プラスバンド部、合唱部

②名曲鑑賞

東京71ハーモニー交響楽団アンサンブル
サンサーンス「動物の謝肉祭」ほか
生徒との共演

*収容人員2.100名(在校生1.080、教職員89、
来賓・同窓生・保護者・旧教職員等931)

当日事業/10月14日(土)

《記念式典・午前》(函館市民会館)

①オープニング・セレモニー

(VTR・函中100年のあゆみ)

②オープニング・ファンファーレ(吹奏楽)

③次第(校長式辞、協賛会長挨拶、来賓祝辞、感謝状贈呈、記念品贈呈、生徒代表挨拶、祝文・祝電披露、校歌披露)

*収容人員1.770名(在校生1.080、教職員89、
来賓・同窓生・保護者・旧教職員等601)

《記念祝賀会・午後》(函館市体育館)

①セレモニー(協賛会長挨拶、校長謝辞、 来賓祝辞、白楊同窓会支部長紹介)

②祝宴(祝杯、祝宴、メッセージ、スピーチ、アトラクション、校歌斉唱、万歳三唱等)

*収容人員1.500名(同窓生1.200、来賓・旧教職員・教職員等300)

●その他の事業

- ①函中100周年記念会館増改築工事
- ②在校生に記念品贈呈
- ③創立100周年函中賛歌制作
- ④記念ポスター、記念デザイン募集、記念作文集発行
- ⑤「白楊時報」「学叢」特別記念号発行
- ⑥函中100年の歩みビデオ制作
- ⑦「白楊祭」等学校行事への支援 ほか

日本航空羽田発函館行設定便			
10月13日	541便	8:00	発
	543便	12:30	発
	547便	17:00	発
10月14日	541便	8:00	発
日本航空函館発羽田行設定便			
10月15日	544便	14:40	発
	548便	19:15	発
10月16日	542便	10:10	発
	548便	19:15	発

◆航空機のみ利用二九、〇〇〇円
お問い合わせ・お申し込みは
ジャパンツアーシステム営業推進
部電話〇三・五四四二・五六六〇
(担当: 山本)【日本航空(株) 児
玉久美子(第68期)】

ラス宿泊料)を提供いたします。
◆ホテル(函館国際ホテル)ツイン利用/朝食込/一名料金
・一泊二日 三三二、〇〇〇円
・二泊三日 三七七、二〇〇円
◆旅館(湯の川・啄木亭)一室二名利用/朝夕食込/一名料金
・一泊二日 三三六、四〇〇円
・二泊三日 四八八、〇〇〇円

第18回親睦大会

同窓の絆の中で、和気あいあいの交流



65期(昭和38年卒) 菅原 大作
副支部長

“心のオアシス東京支部を活力ある集いに”をテーマに毎年開いている白楊ヶ丘同窓会東京支部の平成6年度「第18回親睦大会」が昨年10月21日(金)午後5時から、東京・港区南青山のフロラシオン青山(東京青山会館)で、同窓生および来賓約170人が参加して盛大に行われた。特別企画では、母校の数学名物教師・菊池禎祥先生(オモチャ)のご長男・菊池稔史氏の講演「動物の故郷を訪ねて」が行われた。



【上】食事をとりながら、会場一杯になごやかな会話が続きます【左】函館から駆けつけた来賓も次々に連帯の挨拶。

イトメの生態と白鳥の故郷 特別企画で講演した菊池氏は昭和25年(52期)函館高等学校(函館中部高校の前身)を卒業。北大理学部動物学学科を卒業後、昭和32年から茨城大学に勤め、現在は同大学理学部付属潮来臨湖実験所講師として、動物生態学、水生生物学、主に川虫やイトミミズ、アカムシなど、川底、湖底に住む味な生き物を研究している。

「今日は、海釣りの餌でおなじみのイトメ(ゴカイの仲間)の生態と白鳥の故郷・シベリアの話をしてみたい」と、淡水と海水が混じり合う茨城県・酒沼に生息するイトメについて、季節ごとの生息数や繁殖状況などの生態を解説した後、白鳥とのかかわりについて「茨城県には白鳥がたくさん飛来してきて冬を過ごすのが、水鳥とすることでイトメ同様水に関係があるので調べてみた」と話し、



→ユニークな語りで、酒沼のムシや白鳥の生態を話す菊池講師

以上は嘴の先が黒くて付け根が黄色い大白鳥で、それより付け根の黄色の部分が少ない小白鳥を合わせると全体の95%以上を占める。そのほかに、本来はアヒルと同じように飼われていて渡りをしないとされている瘤白鳥がいる。ところが、瘤白鳥をよく調べると一部渡りを行うことがわかった。この瘤白鳥のルーツを求めて北極海に近いシュミットという場所を訪ねてみた」と、スライドとOHPを示しながら、ジェット機、プロペラ機、ヘリコプターを乗り継いで行った永久凍土の地での調査体験を、のんびりとしたユニークな口調で説明した。

菊池氏の研究のほんの一端ではあったが、普段はほとんど見ることのない湖底生物の生態と、白鳥生息地での地道な研究活動は、参加者に感銘を与えた。

今や女生徒が上回る時代に講演の後、会場を代えて、午後6時30分過ぎから懇親大会が始まった。

まずは開会前に「函館中学校校歌(同窓会歌)を合唱し、大会の雰囲気盛り上げる。二上達也支部長(52期)は、

「懇親大会は、久闊を叙し、母校という絆で結ばれた大勢の人々が集まって、さらに人間同士のつながりの輪を広げ、一層強固なものにしていく目的を持っていて。創立百周年の記念大会も予定されているが、函館でも多くの方にお目にかかりたい」と挨拶した。

また、55期の野田義成函館中部高校校長(当時)は、

「現在、在校生は男子五四三人、女子五三六人だが、来年は女子の比率が上回ると思われる。旧制中学を卒業された方は嘆かれるかもしれないが、女性の勢いが強い今の世の中ではそれもやむを得ません」などと報告した。

その他、横井哲郎函館市東京事務所長、藤岡敏彦白楊ヶ丘同窓会長、金石英治同事務局長、三浦祐晶同札幌支部長、葛西善一同函館支部長が来賓として出席、横井、藤岡の両氏から、北海道新幹線の函館乗り入れについての働きかけや、同窓会館の建て替え事業などについての協力要請があった。

挨拶の後は、久しぶりに顔を合わせた会員の間で、先輩、後輩の隔てなく会話が弾み、懐かしい函館弁も随所で聞かれた。宴最高潮の頃、恒例の抽選会が行われた。仲間から寄贈の賞品はジャガイモ、函館ワイン、洋酒、テレホンカード、雑貨類など約90点。最後に「火柱の……」の校歌を高らかに歌って幕を閉じた。

忘れられない函中時代のエピソード

東京支部役員が明かす思い出のひとコマ

白楊ヶ丘同窓会東京支部 老若男女、卒業年次の違ういろいろな人達が集い、温厚な二上支部長を中心に和気藹々の中で運営されています。そんな役員の方々、自らの函中時代の思い出を語ってもらおうと、支部長のお膝元、千駄ヶ谷・将棋会館の食堂で集団インタビューを試みました。「今だから話す」とっておきのエピソードもあるようです。仕事をさぼっても、女房の輦盛をかっても駆けつけてくる、同窓会活動に飽きない面々のユニークな一面を覗いてみてください。

酒とまんじゅうの日々

菅原大作(65期・副支部長)

私は、函中名物『白楊祭』のことが記憶に残っています。後夜祭ではファイヤー・ストームの



周りでフォーダンスをしたのですが、一か月くらい前からその練習がありました。体育の授業は男子が新体育館、女子が旧体育館と分かれていて、ダンスの練習になると、渡り廊下を歩いて男子が旧体育館に移動しました。

女の子と手をつないで踊るとい

うのがどうにも照れくさく、しかも男の方がずっと多いわけですから、相当数は男同士で手をつなぐというおぞましい光景もありました。それが嫌で、積極的にさぼって、テニス部の部室で時間を潰していました。結局、三年間一度もフォーダンスに参加しなかった

のですが、今考えるところか寂しいような感じもあり、何故か頭に焼き付いています。

そのほか、白楊祭では仮装行列の山車づくりも面白かった。当時は市役所前から学校までパレードしたので、三年の時、我々七、八

荷揚げと養豚の課外活動

福津達男(52期・理事)

私の頃は、旧制中学から新制高校に移る時期だったので六年間も函中で厄介



なりました。昭和一九年の入学で、戦況は悪化の

一路でした。その頃は、なぜか市中央(函館東高)と仲が悪く、いつもケンカでした。ただ、体力のある者が市中に集まっていたせいで、我々がいつも負けていました。

ケンカも大変でしたが、函中の先輩連中は先生よりもこわかった

人は大門に近い級友の家の二階で仕上げ作業をしました。準備の間は十分あったのですが、ズルズルさぼっているうち、結局徹夜作業で、明け方近くによくやく出来上がりました。完成を祝して日本酒で乾杯したのですが、またたく間に一升瓶が空になり、すきつ腹に冷や酒で一気に酔いが回りました。そして悪酔いした一人がトイレに行こうと立ち上がった瞬間、

胃袋の中のを完成したばかりの山車の上の思いつきりぶちまけてしまったのです。あの衝撃は強

烈でした。

酒と言えば、何と言っても忘れられない味が五稜郭電停前の『酒まん』です。テニスの練習が終わった後、汗くさいまま店に飛び込んで、女子の先輩からよくおごってもらいました。

あの頃、函中テニス部の女子チームは全国大会にも出場するほどの強豪で、そのせいか太っ腹でもありました。

出枯らしの番茶と一緒に食べた酒まんは、私にとって忘れられない高校時代の思い出の味です。

た。何だかんだと言っては、理屈の通らないことで度々なぐられま

した。軍隊のしきたりのようなものが流れていたのだと思います。戦争が終わって、その悪習も一年上の先輩のところで消えました。

戦後はアルバイトに精を出しました。ライオンの石鹸や日本缶詰の箱詰め作業が一日百二十円。率が良かったのは外国船からの塩や石炭の荷揚げで、朝八時からの二

で稼いだ金で子豚を買い、亀田で豆腐屋をしていたT君のところで、オカラを餌に養豚を始めました。一年ほどして大きくなった豚を函館山に連れて行って密殺することにしましたが、豚はまっすぐは歩くのですが方向転換がうまくできないので、雪道の中を尻を叩きながら三時間もかかって山に着きました。

ところが手塩にかけて育てた私とT君はどうしても殺すことができなくて、後に自衛隊に行ったO君がやりました。血の匂いを嗅ぎつけた山犬の群れを蹴散らしながら、へとへとになって千代ヶ岱の

自宅にたどり着き、肉を焼いてむさぼるように食べました。ものがない時ですから、肉は飛ぶように売れました。

そんな課外活動ばかりで学校は休みがちでしたから、「欠席多き為採点不可能」という通知箋をもらいました。落第を覚悟していましたが、卒業証書をもらえたのは、温情ある先生と、いつも代返してくれた友のおかげと今も感謝しています。

名門校も女人禁制の掟破れて

小泉龍彦(52期・監事)

昭和二十三年、我々が中学四年から高校二年に変わる時、名門函中に女子生徒が入ってくるという



話がありました。男女共学制というやつです。

当時のPTA会長は萩原文造氏でしたが、たまたま私の親父が裏のPTA会長のような立場にあったものですから、早めにその情報が入ってきました。そこで、安宅喜太郎校長のところに行き聞いてみますと、「なんでお前がそんなこと知ってるのか」と驚いた後、「進駐軍からの命令で共学制を導入することになった」と言うではありませんか。我々が高校三年になる時から共学にすると言うのです。

私たちは「絶対反対だ。伝統ある名門函中に女子が入ってくる」となど許されないうことだ」と突っぱねて、教室に戻ってから仲間と相談して檄文を書きました。便所

の設備がないことも含め、受験の大事な時期にゴチャゴチャして気が散るのは困るなど、書道部の私筆で書いて校長に差し出しました。

その頃、全国公私立高校の大学進学適性テストで函中は全国第十四位だったのです。一位が東京府立四中（戸山高校）、二位が五中（小石川高校）だったと記憶しています。もちろん北海道では一番で、僅差の十五位に札幌一中（札幌南高校）がいました。そんなことで、私たちは函中のレベルの高さに大変なプライドを持っていましたから、男女共学になって落ち目になったら大変だと真剣に考えていたのです。

そんな私たちの激しい運動のせいか、内地の高校は昭和二十四年から共学になったのですが、北海道野蠻な男たちとも最後は仲良く



私には、修学旅行で列車乗り遅れという衝撃的エピソードがあります。

「おや、どうして……？」
胸にファンタを抱えたN君、そばで立ちつくす私、列車の窓からは先生やクラスメイトが唖然として私たちを見つめています。
荷物も財布も列車の中です。
「もう、函館に帰るべ」と言う弱気のN君を説き伏せ、助役さんに事情を話し、名刺の裏書の特別通行証をもらって、約四時間遅れで追いかけ始めました。急行十和田と新幹線を乗り継いで、お昼頃に京

道は一年遅れで、私たちの卒業後に実施されました。でも今考えると残念でなりません。憧れの片立ち高女の女学生と同席できるチャン

置いてけぼりの修学旅行
垣坂 清（78期・理事）
私には、修学旅行で列車乗り遅れという衝撃的エピソードがあります。



当時の修学旅行は日本海側ルートで京都へ行き、それから新幹線で東京に戻り、太平洋側

トで帰ってくる行程でした。私たちはまず連絡船で青森に渡り、一六時二五分の「特急日本海」に乗ることになっていました。青森駅で荷物を列車に積み込んだ後、私

れは中部、誰それは東高……という具合に住んでいる地域で割り振られました。本当にビックリしました。

私は中部と言われましたが、何しろ男兄弟のいない家庭で育って来ましたから、男の人が怖くて「あんな野蠻なところには行きたくない。どうか高女（西高）に残してほしい」と泣きながら先生にお願いしたのですが駄目でした。

新学期になって仕方なく中部に行きましたら、女子トイレを大急ぎで作りました。友達から「函中の先生は怖い人ばかりよ」と言われていたのですが、先生方も女子生との扱いに戸惑っていたようで、みんなとてもやさしく、女子の言うことなら何でも聞いてくれ

スを逃したのです。やせ我慢したばっかりに四五年後の今日、同期会のたびに居並ぶ男ばかりの空しさを悔やんでいます。

はぬかりなく発車時間を確かめて、缶ジュースを買おうとホームに降りました。
ホームでは、ラグビー部のN君が先に自動販売機に取り付き、女子生徒に頼まれて一本九〇円のファンタをまとめ買っていました。ところが途中から何度百円玉を入れても缶が出てこなくなりました。二人であれこれやっていたうちに釣銭切れであることがわかりました。陽が傾いて差し込んでいたので、釣銭切れランプがよく見えなかったのです。あきらめて戻ろうと振り返ると、なぜか特急列車が動き始めているのです。

でも男子と女子はなかなか打ち解けず、ほとんど話もしませんし、ダンスの練習でも女同士、男同士で手をつないでいました。先生方は何とか男と女を仲良くさせようと苦労していたのですが、私たちの担任は、休みの時によくクラス生徒全員を連れて、大沼までボート漕ぎに連れて行ってくれました。そんな先生の努力の甲斐があつて、卒業の頃には男子と女子がとも仲良くなりました。学校に在るのが楽しくて、毎日真っ暗になるまで学校に残っていたものです。同期生同士で結婚したのも確か六組ほどあつて、今でも同期会などでとても仲良くやっています。

将棋は見ていただけ……
二上達也（52期・支部長）
「どうして将棋界に身を投ずるようになったのか」とよく聞かれますが、あの時代に将棋で身を立てようなどと思つたのは、やはり函館のおおらかな風土、函中の自由な校風の中



育つたせいだと思えます
学校の仲間、机の蓋の裏側に盤面を書いて、休み時間になると将棋を指していました。私はそばでジッと見ているだけでした。「二上は学校でも将棋はすごく強かった」などという伝説があるようですが、とても「相度くさくて」、彼らの相手はできなかったのです。学校では一度もやらずに、ただ見ていただけです。ただ、赤川飛行場の整地とかアカツキ部隊などに生徒動員で行った時には、休憩の時のみんなの気晴らしで、

都に着きました。仲間は嵐山に行っていました。どこから連絡があったのか、先生が駅で待っていました。

「ヤレヤレ良かった」というところでしたが、二日間の外出禁止処分を受け、旅館でじっと謹慎していました。

それからは毎年、修学旅行の説明会で「こんなふうになり遅れた実例があるので、ホームでは決し

ちよつとやったことがあつたかも知れません。
函中で記憶に残っているのは、寒い日の朝礼です。戦争中ですから、中庭の砂利の上に裸足で並ばされ、軍隊式に先生や先輩から随分気合を入られたものです。しかも長い朝礼で、終わる頃には足の感覚がなくなつてしまうほどでした。

教室に戻つてストープの周りに集まるのですが、石炭の配給が一日に木の桶一杯ですから、すぐになくなつてしまうのです。教壇を壊したり、机や椅子の一部をはがして燃やしたりしていました。そのうち誰かが、どこからか石炭を調達してくるのです。学校のなかにも余分な石炭などそれほどない時代ですから、あれはどこから持ってきたのだろうか……と今も思います。何しろ私は真面目で、おとなしい生徒でしたから、そのへんの裏の事情には疎かったのです。

将棋は見ていただけ……
二上達也（52期・支部長）
「どうして将棋界に身を投ずるようになったのか」とよく聞かれますが、あの時代に将棋で身を立てようなどと思つたのは、やはり函館のおおらかな風土、函中の自由な校風の中

「て買物をしていないように」と厳しく注意されているとのことですが、それは私の仕事です。

可憐な制服姿に憧れも

桑原洋子（75期・理事）

私たちが二年の時に函中には制服がなくなっていました。それが私にはちよっとショックでした。



女子高生の制服姿というロマンチックなイメージもありますが、それ以上に制服があれば毎日着ていくものに悩むこともなかったわけですから。

当時は全国的にも制服廃止の運動が広がっていて、廃止した学校

もいくつかありました。函中はそうした運動の火付け役になって、しかも、ほかの学校は標準服というような形で制服制度は残したケースが多かったのですが、函中の場合は「制度」そのものを根本から廃止するというところで画期的だったそうです。

制服に限らず、とにかく何でも自由という感じでした。やるべきことさえキチッとやってあげば、煙草も酒も、髪の毛の長さや色も、バイクも何でもOKでした。いまはやりの規制解除です。スカート丈が膝から何センチなどと、他の学校ではいろんなことが細かく決まっているそうですが、函中で育った私としては信じられないところですよ。

生徒の自主性ということで、自分たちに関するいろいろなことは生徒総会で決めていきました。しかし、結論の落ち着き先は誰にも見えていませんから、無駄な議論もありません。生徒総会のある時に集まるのですが、執行部提案どおりすぐに決まってしまうので、その日は大喜びで早帰りしたものです。

「いいかげんな生徒会だ」という言い方もあるかもしれませんが、逆に言えば、それだけ生徒みんなが、何が自分たちにとって正しい筋道かを知っていたことだとも思います。

そのほか、生徒会に関係なくクラス全体でサボタージュしたことも

仁王立ち満江先生の温かさ

土橋道子（63期・副支部長）

毎年クラス替えしていましたが、三年生になる時は、K・T君という生徒の一人が先生から任



されて学年全員にクラス分けをしたと聞きました。本人は「俺の趣味で分けただけだよ」と

言っていました。仲間一人ひとりのことをよく知っていて、しかもバランス感覚のある人物だったのだと思います。これも、できるだけ生徒の自主性に任せる函中の自由な校風の表われでしょう。

もうひとつ、高三の時が六〇

年安保にあたるのですが、生徒会の呼びかけで先生方と一緒に安保反対のデモ行進をしたことがあります。その時は、何とも言い表せないような先生と生徒の強い一体感を感じたものです。

そんな中で、体操部とコーラス部に入っていた私は、部活と早飯とおしゃべりが楽しくて毎日学校に通っていたように思います。

体操部の顧問は、皆さんが怖がっていた、あの泣く子もだまる満江先生です。遅刻の取り締まりで、毎朝正面玄関に仁王立ちしていた姿を覚えている人も多いのではないのでしょうか。旧体育館の床を隅々まで磨かされ

るなど、確かに厳しいこともありましたが、私は怖いと思ったりはありませんでした。時々ヒステリックになることもありましたが、とにかく満江先生は徹底して人間の基本を教えようとしていたのです。おかげで一畳に六人という短大でのスシ詰め寮生活も、ほかの人たちは大変な思いをしていたようですが、私は実に楽しく快適に暮らすことができました。

ですから社会に出て、どんなことを言われても厳しいと思つたことはありませんでした。そして満江先生は卒業してからの面倒見が実によく、見た目のとおり懐の大きく温かい先生でした。

もありました。特に、何を言っているのかよくわからない上に怒りっぱだった、ペロこと豊岡先生

仲間が書いた本

丹念に綴った交友記録

「知友に恵まれて」



昭和10年卒・第37期
室谷邦雄 著

三百頁余りの分厚い自分史。日

銀小樽支店を振り出しに日銀マンとしての道を一筋に歩んできた足跡と、テニス、英語クラブ、同窓、同郷の幅広い交友関係が綴られている。職場の同僚や友人の名前とその関係が丹念に記され、「私と共に歩いてきた人たちの歴史でもある」と前書きにあるとおり、ドラマとしての自分史というより交友記録の意味合いが強く、几帳面な銀行マンの性格が窺い知れる。昭和初期の授業科目や先生など、函中時代の記述も興味深い。

生々しい青春体験記

「亀裂のとき」



昭和16年卒・第43期
家坂孝男 著

松前宏のペンネームでまとめられたこの短編集は、新潟地震のさなかの恋愛進行劇「亀裂のとき」など五篇で構成されている。生々

の数学の授業が二時間も続いていることがあって、みんなが授業ボイコットした時は爽快でした。

しい青春体験のアラカルトだが、中でも、旧ソ連軍に満州で捕虜となり、シベリアまでの輸送と苛酷な強制労働の裏状況、ロシア将校や女医との交流などを描いた「アムールでのあとさき」は、体験者ならではの凄まじい臨場感が迫る。したたかな捕虜の心情描写も面白い。

（近代文藝社刊／千三百円）

60歳からはギリシヤで

「私達のバリーニ」



昭和23年卒・第51期
奥山和宏 著

アテネ日本人学校校長としてギリシヤに魅せられた著者が、再びアテネ郊外の小さな町・バリーニに住み着いた二年間、日本の友人に送り続けたスケッチ風エッセイをまとめた本。輝く太陽、食卓のオレンジ、咲き乱れる野の花とともに、ゆったりと人生を過ごす人々の姿が浮かぶ。そして著者は、日本人が昭和三〇年代に失ったものがあると言いつつ、円高時代の年金を有効に使うためにも、六〇歳からはギリシヤで暮らすことを薦める。

（近代文藝社刊／千五百円）

賑わう明治館で遊んだ記憶

37期(昭和10年卒) 風間 憲吉

世界屈指を誇る函館の夜景。異国情緒溢れる見どころが観光客を喜ばせてくれる。中でも明治館にはたくさんのバスが並び、訪れる人々で賑わっている。子どもの頃、あの辺りは船場町と記憶しているが、函館郵便局本局であった。向かい側には海産物商や北洋漁業相手の縄縫問屋が並んでいた。その中の一店が親戚で、同年輩の従兄弟がいたので、よく構内に入り、窓から電信掛の使用済みの丸いテープを買っては有頂天になっていた。



函館の街、私の好きな場所

その裏に郵船が浜と言う樺太方面への集荷場があった。父の商売の関係上、ある時は荷車、冬はソリ、荷馬車で近海郵船や金森倉庫へ味噌、醤油を持ち込んだもので

お気に入りには元町の小道

40期(昭和13年卒) 本田幸兵衛

私の生まれたのは函館のど真ん中の銀座通りで、小学校は宝小学校だった。二年の二期に函館女子尋常高等小学校が、女子校から男女共学の普通校となり、男子のクラスをつくるため近辺の教校から男子のみが十数名つつ転校した。朝礼の時は、万目紅中緑一点で女子ばかりの列の真ん中に男子の五十名の列が一本あり、好奇心

ある。周囲は荷馬車の群れで賑わい、舗装されていない道路は馬糞で汚れ、雨の時は大変であった。私にとっては、今はあの辺りが懐かしい思い出の場所である。



元町の小道

今も昔も、この界限は、教会あり、ミッションスクールあり、洋館ありの極めてノープルな雰囲気です。すっかり心を奪われた。特に学校のあった汐見の隣地区の元町

一

昭和二十一年三月。父と二人、函中受験の晩暗の旅立ちだった。家から江差駅までの雪の三五キロを黙々と歩いた。陽が上がり雪がゆるみ、ころぶ。爾来、冬休み、春休みは雪の三五キロを一人で往復した。

電灯もない寒村出身者には、函館はきらびやかな文化と奇蹟



函館の街、私の好きな場所

二

友人もカネもない私の憩いは函館図書館だった。放課後図書館へ直行して読みふける毎日。図書館前に立つと、いまでもほ

恋の舞台は喫茶店『山小屋』

54期(昭和27年卒) 佐藤 正郎

る苦く酸っぱい電流が走る。

近くの喫茶店『山小屋』は男女共学になってからの、言い出せなかった恋の舞台である。数年前行って見たが、古びた建家が残っているだけだった。

三

中一の担任は佐藤直樹先生だった。書齋には漢籍と岩波文庫のケルンが林立していた。そのなかで先生の温顔に接すると、それだけで心が休まった。

四

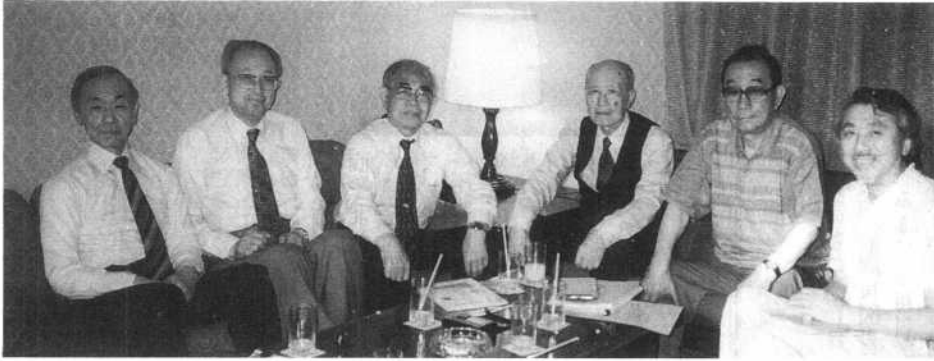
竹内先生をはじめ、独身の先生が校舎内で共同生活をしておられた。I君とそこを訪れたが不在。I君が蔵書の中からヴェルデの『完全なる結婚』を発掘した。首をつき合わせて挿絵だけを急いで見る。何とも不可解だったのは女性のその絵である。それ以来、私にとって女性は神秘と魔性の存在となった。

五

私にとって「火柱の・」は華やぐ青春の主題歌であり、「玄暎の・」はほの暗く甘やぐ少年のそれである。いずれもかけがえのない歌であることに変わりはない。

◆思い出の道、お薦めの美味しい店など、あなたのお気に入りの函館の場所についての原稿をお寄せください。ちなみに私の好きな場所は、何と言っても、あの「中島廉売」です。(編集部・片岡)

わが白楊魂を培った 函中の気風と恩師の気骨



左から相馬(40期)、井上(同)、室谷(37期)、浅野(同)、梅田(40期)の各氏。右端は司会役の小林嘉則副支部長(63期)。六本木の日銀クラブ鳥居坂分館で。

「函中創立百周年記念号ということで「同期座談会」を企画し、協力を呼びかけたところ、四〇期(昭和十三年卒)の相馬先輩から手が上がり、期を越えて交流している三七期(昭和十年卒)の先輩も交えての合同座談会になりました。五人の話題に再三登場する萩原獅郎先生(実は私が在校中の校長先生)を恩師代表で呼ぼうという話もあったのですが、「やっぱり同窓生だけで自由によってくれよ」と辞退されました。意気盛んな怪気炎が飛び交い、話題の尽きない元気な五人、「同窓会は若い者だけで頑張らず、俺たちが楽しく参加できるように先輩孝行しろよ」と背中を叩かれました。」

自覚と誇り感じた黄線の学帽

【記録文責】片岡進(71期)

司会 昭和八年、四〇期の方が入学された時には三七期の方は四年生だったのでね。その当時の函館の学校の状況はどうだったのでしょうか。

井上 当時函館で中学校は函中だけで、あとは庁立高等女学校と函商、函工、師範、それに私立の女学校が五校ほどあったと思う。室谷 小学校を卒業して、旧制高校や大学を目指すいわゆるエリートが函中、家業を継ぐ人は函商、優秀な女子は高等女学校へと進み、残りの大半は高等小学校に上がって、それから師範学校や函工へ進むという形が多かったね。相馬 今は高校入試に失敗すると中学浪人になってしまうが、当時は中学受験に失敗しても小学校高等科に進める複線コースだったので、その点では良い制度だったと思う。高等科からは函師、函工に進むだけでなく、高等科一年から

「函中に入学してくる人もいた。ごく僅かだが、小学校五年から中学校に入学してくるものもいたね。」

井上 小学校が、義務教育としての六年の上に高等科の二年が加わって八年あったわけだ。確かに飛び級で入学してくるのがクラスに一人づつくらいいたけれど、やはり子どもの時の一年というのは差が大きいから、最初は勢いが良くても、最後はドン尻というケースが多かったな。中には小樽高商(現小樽商大)に進んだ漆崎勝次君のように最後まで優秀なものもいたけど、彼は戦死してしまった……。それにしても、函館のような大きな街に中学校がひとつだけだったというのは、ちよつと首を

千葉校長の麗しきカンテラ頭

ひねるね。梅田 函館は商人の街で、「商売人に余計な教育はいらない」という風潮が強くて、それで函商に行く者が多かったんだ。国鉄や函館ドックがあったので工業に行く者も多かった。だから中学校はひとつだけで十分で、その先の進学を目指すいわゆるエリートだけが函中に進んだわけだ。俺は例外としてね(笑)。札幌一中(札幌南高)や旭川中(旭川東高)がライバルで、札幌一中にやや後れをとっていたところもあったが、我々は函中の、あの黄線を巻いた帽子にすごい誇りをもっていた。そして街の人たちも函中生には一目も二目も置いていたね。

室谷 それで、札幌一中に後れをとってはならずと、当時の千葉校長は、良い先生を集めるのに大変熱心だった。大学の研究室にいたような人を、どんどん引っ張ってきた。萩原さん、松倉さん、佐久間さんなどもそうやって函中に来た先生だ。そして千葉校長は、北大は札幌一中に譲って、小樽高商に進学することを積極的に薦めたんだね。俺も小樽高商に行ったが、勉強でも部活動でも主だったところはほとんど函中勢が占めていたね。小樽商業勢よりも多かったと思う。

井上 そう、千葉校長は本当に素晴らしい人だった。「世の中を正しく見て、正しい知識を持って、何事も自分で考え判断しなさい」と、いつも言っていたね。

梅田 先輩たちは千葉校長を「麗月」と呼んでいた。見事な禿げ頭だったんだが、まだ少し髪の毛が残っていたので麗しい感じだったのだろうね。でも俺たちの頃にはほとんど毛がなくなっていたので、「カンテラ」と呼んでいた。とにかく朝礼の時、演壇に立ったカンテラの姿、あの背筋がピンと伸びた姿は、実に気品ある禿げ頭だったな。

井上 ところが、我々が五年生になる時に、千葉校長が定年退職して渡辺校長に変わったのだが、この人が右翼思想の強い軍国主義的な人で、学校の雰囲気ガラッと変わった。「強い軍人をつくるには頭の中身よりも体力だ」と言うんだからね。函中の歴史の中で不幸な一時期だったように思う。

相馬 渡辺校長はもともととそういう氣質をもっていたんだらうが、昭和十二三年頃の戦争が迫っている時代状況がそれに拍車をかけたんだと思う。何しろ学校の中

成績順に決まる級長、副級長、出席簿

司会 小樽高商の話がいろいろ出ましたが、ほかに函中を卒業してからの進学としては、どんなところが目標になっていたのですか。

浅野 やっぱり、北大、仙台の二高・東北大、それに一高・東大ということ、今とあまり変わらな

いんじゃないかな。
梅田 ただ、どこの家庭も金があったから、一高に入る学力はあっても、海峡を越えて東京に出すだけの余裕がなくて、道内の学校で我慢するというのが実情だったんだね。

室谷 我々の同期で厚生大臣を務めた田中正巳君(参議院議員)は、新潟高から東大に進んだが、「あいつが東大に入るんなら、ほかに何人も東大に行けたんだな」と、仲間で話したこともあった。一年の時は僕が四組の級長で、田中が五組の級長。二年になると僕が二組の級長で、田中は二組の副級長、三年からは田中は副級長にもならなかったのだから、彼より成

で、現役中佐の配属将校が校長の上になっていた時代だ。卒業の時には小樽高商なんかより陸軍士官学校や海軍兵学校に行くようすすめられたもんだ。

績の良かった者がたくさんいたということだね。

浅野 我々の時の級長、副級長というのは実にはつきりと成績順に決められていて、一番成績の良いのが一組の級長で、順に上から五番目までが各クラスの級長。副級長はクラスに二人づつで六番から十五番までということだった。

相馬 それだけじゃない、毎年クラス替えになる時の出席簿も成績順になっていたから、何番目に呼ばれるかで、成績がすぐにわかっ

てしまった(笑)。
梅田 優秀な人材がたくさんいたけれど、函館が閉鎖的な街だったこともあって、若者の、外の世界に飛び出そうという気持ちがいやや欠けていたのが残念だったね。

井上 函中の校風や函中生の心意気を表す言葉に「白楊魂」というのがあったが、覚えているだろうか。一戸大将が書いた額が雨天体

心意気は「白楊魂」

操場(旧体育館)に懸けてあった。ところが、あの額が戦後取り外されて二〇年もしまい込まれていたんだ。軍人が揮毫したのが問題になったのかも知れない。その額を再び校内に懸けたのが、昭和四〇年に校長になって戻ってきた萩原先生なんだね。

厚い人情で面倒みる師弟の世界

井上 萩原先生や松倉先生に「どうしてそんなに我々のことを覚えていたのか」と聞いたら、「教師になって初めて付き合った生徒だからだよ」と言ってたね。

相馬 自分も教師だからわかるけど、初めて教えた生徒、学生というのは本当によく印象に残っている。ところが、三年、四年目くらいになると、印象がすっかり薄くなってみんな同じように見えてしま

まうんだね。
司会 我々の三年間の高校生活と違って、皆さんは五年間でしたから先生との接点も多かったようですが、そんな中で何か面白いエピソードはないですか。

梅田 その「大根」こと萩原先生は水泳部の部長で、五稜郭のお堀で薩摩藩伝来の古式泳法を見せてくれたことがあったね。

浅野 何十年ぶりかで萩原先生とお会いした時俺のことを「おお、浅野増太郎君か」とフルネームで覚えていてくれたことには感激したねえ。

梅田 カメラが好きで、下宿していた時計屋の娘と結婚した松倉先生も印象深い人だった。

梅田 大久保熊太郎という生徒指

室谷 師弟の人情ということで、僕には進学の時の思い出がある。北大の小樽高商かと迷っていたけど、北大の試験の時は函館大火があつて、試験を放棄して帰ってきた。東京高等師範も受けたいけど、最初から卒業記念の東京見物と考えていたので、失敗した。そうしたら千葉校長や佐久間先生が配慮してくれて、小樽高商に無試験で入学することができた。その上、函館高等水産に進学する者に対する小樽水産の奨学金制度に例外規定をつくって、僕にも奨学金を出してくれるようになった。

梅田 通常の倍額の月額二〇円ももらった。だから、千葉校長への恩義と函中の名譽のためにも気を抜くわけにはいかず、仕方なく一生懸命勉強したね(笑)。

ユニークな先生ばかり

梅田 英語の先生で「鼻」というあだ名の清野先生も面白かった。日本人離れした顔で、しかも全く笑顔がない。その顔で「ニワトリの鳴き声はクックドゥドルドゥだ」って手をバタバタしながらやるもんだから、呆気にとられた。でもあの先生は旧制高校の教員資格を持っていたんだよね。

相馬 ただ、あの先生は秋田出身だったので英語の訛りがひどかった。当時の英語は読み書きだけで会話も重視していなかったからあれでも良かったんだらうけど、東北弁の英語を習ったんだから、俺たちは面喰らったね(笑)。
井上 面白い先生では戸村先生という人もいたな。いつも黒い和服

出席者
(年次・50音順)



37期 浅野増太郎



37期 室谷 邦雄



40期 井上 勲



40期 梅田良太郎



40期 相馬 正樹

を着て、漫談ばかりでまともな授業なんてほとんどなかったね。

相馬 でも、あの人は「隠れた歴史研究者」ということで新聞でも紹介されたことがある。彼の学説で南北朝時代という言い方を吉野朝時代に変えたと言うんだね。「俺のおかげで桂内閣が総辞職したんだ」なんて自慢話もしていた。戸村先生はたくさん蔵書を持っていただけ、不幸にして大火で全部焼いてしまった。

梅田 英語の先生では「スモール」と呼ばれた水野先生がいた。浅野 小柄だったけど、足の速い先生で、おしゃれな人だったな。梅田 思想的にかなり左がかったので、渡辺校長からは「まことにけしからん奴」とも思われていたようだけど、英語のうまい先生だった。今は藤沢市に住んでいると聞いている。

相馬 水野先生は函中を終わってから東京に来て、昭和女子大学の教授をしていた。学生部長もしている、ある時「ちよつと来てくれ」というので行ってみたら、「学生運動が激しくなつて、学長が軟禁されてしまうような時の対策を聞かせてくれ」と心配そうに尋ねられたことがあった。

いじめにあった先生も
梅田 変わり種では、「ガン」とか「リケッチャ」と呼ばれていた東大卒の鎌田先生。独身でやつてきて半年後に結婚したんだが、時々ボーッと窓の外を見ていたりしていた。俺たちは「昨日ががんばったのかな」とか「嫁さんのこと思い出してるんだろな」なんて悪いこと言っていたよ。

室谷 俺たちによくいじめられた先生ではエックスこと数学の橋本

歌で綴る恩師の横顔

37期(昭和10年卒) 釣谷 光博

悪童ら相はからいて質問し蜚子英語を泣かしめすこと
安保国語書き取り厳しく泣きたれど字を覚えてゐて今ありがたし
筒井物理春うららかに眠けて先生の眼もねむむたげなりし
修身の中身虚ろに大久保の髻の白さを見つめあしのみ
高嶋の坊主頭と鋭き眼歴史プリントの字の美しき
水野英語坦々とした講義にてふちなし眼鏡の底の冷たさ
石戸谷のがなり立てたる教練も人の良さにて救われにけり
ジャグ(逆)と言う漢文板垣柔道の汗の臭さを今も忘れず
蹴寄せて単調に話す数学の佐久間は今ほ句をひねりする
営業用笑顔で接する千葉校長禿げに湯気立つ時もありたり
夕焼けのポブラ並木は風に揺れ人かげ少なき校舎を去れり
窓越しの砂山雲に掩はれてものうき午后の授業うとまし

先生がいたな。どういうわけか顔見るたびにいじめていた。

浅野 後ろから近づいて、夏服にインクをひっかけるもんだから、エックスの服はどれもインクだらけだった。どうしてあんなにいじめたんだろね。
室谷 大学の研究室でやっている数学のやり方を中学でも同じようにやろうとするもんだから、こっちはちつとも面白くない。大学と中学とは違うんだ、ということ暗に知らせようとしていたんだと思う。

梅田 そのうえあの人は、やる気のある者とやる気のない者をはっきり区別して、やる気のない奴は全然相手にしない。そんなところが毛嫌いされたんだと思う。だけど、こと数学に関しては優秀な先生で、小樽高商に函中から十四人受けて全員合格した時、「函中の数学の先生は誰だ」ということで小樽高商に引つ張られたんだね。井上 でも、生徒にいじめられたのがよっぽどこたえたらしく、小樽で橋本先生に会った時、「君は函中だったね。あそこはひどいところだね」と言っていたよ(笑)。

生徒が先生の個性を見極め吸収した

梅田 どこから見ても隙がないので「ダットサン」と呼ばれていた藤田先生、芹立高女から移ってきた「腐れイチゴ」こと桜田先生なんかも印象に残っている。高女の生徒から「腐れイチゴが行ったでしょう」と言われた時は、何のこともだかわからなかった(笑)。図画の先生で、萩原先生の仲人をしたタコこと上田先生。独身主義者で女を知らずに死んだというボンズこと高島先生、と思えば返すとユニークな先生が多かったね。

浅野 高島先生は九〇周年の時に講演したんだけど、その時「百周年には来れないからな」と言っていた。三年前に亡くなった上田先生も九〇周年には見えていたね
梅田 まっ黒い顔で「エチオピア」と言われていた渡辺先生、あの人はバイオリンを持って授業に来ていたな。

きり区別して、やる気のない奴は全然相手にしない。そんなところが毛嫌いされたんだと思う。だけど、こと数学に関しては優秀な先生で、小樽高商に函中から十四人受けて全員合格した時、「函中の数学の先生は誰だ」ということで小樽高商に引つ張られたんだね。井上 でも、生徒にいじめられたのがよっぽどこたえたらしく、小樽で橋本先生に会った時、「君は函中だったね。あそこはひどいところだね」と言っていたよ(笑)。

橋本先生の弟が我々の一年か二年下にいたけれど、この弟までいじめていたね。

浅野 僕が強く印象に残っているのは、「ドンカン」こと体操の高山先生だ。テニスコートを作る時、ムシロで土運びをさせられて、思わず遠くから「ドンカン！」って言ったら、高山先生が走ってきて、「誰だ今言ったのは」と、頭を思い切り拳固で殴られた。タンコブができたね。そんなことがあったので、通信簿で体操は落第点だろうと諦めていたら、及第点がついていた。あの拳固でチャラになつたんだね。いつまでも根にもたないさっぱりした人でしたね。

梅田 今の先生は生徒の個性を引き出すことに腐心しているようだけど、あの頃は生徒が先生の個性をよく見極めて、面白いところ、良いところを吸収するようにしていたんだね。
司会 先生の話が随分出ました。そのほか当時の函中生の気質

とかタイプについては何か印象がありませんか。

函中生は名参謀タイプ

室谷 さっきも話したけれど、僕らの同期で大臣になった田中正巳君がいるけれど、ほかには目ぼしい政治家がいらないね。
井上 確かに教師、学者や医者はいないな。

相馬 頭は良いが、人の上に立つて旗を振るようなことは避けようという傾向があるんだな。名参謀にはなるが司令官にはならない、副社長では手腕をふるうが社長ではパツとしないというタイプだ。市内の小学校から、賢くて勉強のできる上澄み液のような人間が集まるから、函中生の気質がさらに昇華して、同じタイプの人間に揃ってくるということがあるのかもしれない。

歳月は慈悲を生ず

井上 異色の先輩では一昨年亡くなった田中清元氏がいる。しかし、彼の仲間の一部には「あいつは変わり身が速すぎる」と評する向きもあったようですが、その点、同じ転向組でも亀井勝一郎氏は印象が良い。亀井さんの墓が多摩霊園にあるのですが、その小さな墓碑に「歳月は慈悲を生ず」を氏の自筆の文字が刻まれているのですが、何とも意味深い言葉ですね。
司会 なるほど、最後に良いお話を伺いました。今日はどうもありがとうございました。

孟子の末裔と安保先生

53期 (昭和26年卒) 佐々木順一

「測隠の心は仁の端なり。羞惡の心は義の端なり。辞讓の心は礼の端なり。是非の心は智の端なり。人の是の四端有るや、猶其の四体有るがごときなり。孟子」

函館のリンカーン大統領ともいふべき容姿の安保徳輔先生は、昭和一九年四月、函中一年生になった私に「中学の先生とは、かくのごとくおだやかに、個性あふるる物言いをするものか」と、感嘆おくあたわざるところであった。

七言絶句の漢詩を朗詠したあと、その詩に魅了なされて、「あ



緑の石器と萩原先生

39期 (昭和12年卒) 河村 泰平

昭和八年、鹿児島から「玄暎の一道」海峡の街に歴史の先生として来られた精悍な顔つきの萩原獅郎先生は、固唾を飲んで見守る生徒の前に、「瑤々来て良かったのは、雪五尺ではなく、初心者の僕にもスキーができる横手山さ」と仰言った。とたんに教室の中の緊張が解け、爆笑と拍手で改めて萩原先生を迎えた。

翌昭和九年三月の函館大火の

昭和三〇年代からはじまった自由という名の勝手主義は、先生という徳育の担い手を、単に肉体労働者の仲間に分類することで、国家権力との対抗図を描き出す結果を生み、子供達は〇×式クイズ大会の参加者に仕上げられてしまっ

時、萩原先生は難を逃れて学校にやってきた数人の生徒を見て、「どうか命だけは助かってくれ」と残りの生徒の無事を祈りながら、「我々にできることをやろう」と、元町公会堂の臨時市庁舎で罹災市民の支援活動を率先指示された。支援活動は四月の新学期まで続いた。毎日、昼飯も食わずに働き、夜道を朦朧と歩いて杉並町の自宅に帰り着いたものだった。

教育勅語を捨てたことによつて日本人の倫理観を喪失させた教育関係者の責任は後世において強く批判されることになるだろう。ホームルーム活動で「他者の発言に異論を唱えるな」と教え込まれた子供は、大人になって社会に出ても、問題をディベートする力を失つてしまい、善悪の判断を心の奥底にしまいこんで、単に指導力を発揮する者達に、唯々諾々と従う腑抜けになりはてる時、将来の日本の外交もあわれな姿をさらすことになるだろう。

昭和万葉集と桜田先生

40期 (昭和13年卒) 井上 勲

重傷(いたで) 負える妻を引連れ念じ来し砂山もすでに炎(ひ)の海となりぬ
飛び散らう火の粉払いつつ人もわれも身体横ふる穴ほりにけり

わが家には、父が少年期に室蘭絵鞆岬で発掘した長さ三〇センチほどの手斧らしい緑の石器があった。父はそれを朝日新聞を積んだ上に文鎮がわりに置いていたが、萩原先生が先住民の文化文明に関する参考資料を集めていたため、函中の歴史資料室に寄付して戸棚の中に入れてもらった。

昭和三五年、機会を得てニューヨークランド南島・ダニデン市オタゴ大学の史学教授に会った。同国の先住民マオリ族の文化と日本文化との関連についての話を聞いてから案内された大学内資料室

子供の徳育を忘れたデモンシカ先生でない、安保先生のような真の先生に教えられた私は幸せであった。

昨年八月、ある会合で中国人の女性を紹介された。色白で、身長一七五センチのスラリとしたしなやかな身ごなしの人でした。名は孟仲芳さん。中国琵琶の演奏者として名高い上に、驚くべきは、孟子から七一代目のご子孫であった。安保先生から受け入れの知識が大いに役立ったことは言うまでもありません。

・目の前に炎となりし人いくたり見つ術なく吾等逃げ行く
・背負いたるランドセルより人形覗きうつ伏し死せる女生徒もあり
・うつ伏して妻子をかばう吾が

で、何と萩原先生を通じて函中資料室に寄付した緑色硬石の手斧石器に再会したのである。

訝る教授に「かつて私有していたものに再会したのだ」と縷々説明した処、「若しかして、貴方はホッカイドですか?」と雀躍して反問されたことがあった。如何な経緯で、あの石器がオタゴ大学史学資料室に鎮座しているのか? アイヌとマオリの交流は太古、今は海没したムー大陸を経て丸木船で大航海を果たしたのだろうか?。灰白色の脳髓は今も独りエキサイトしている。

前に大きな火の粉は音をたてて落つ (原文のまま)

以上の短歌は、「アララギ」の昭和九年五月号に載り、後に「昭和万葉集」に「函館大火」の小見出しで掲載された、我々の恩師の一人、桜田角郎先生の短歌である。

先生は我々が三年の時に着任された、国語を教わり、またクラス担任もされた。神宮皇学館の出身であったため、後に朝鮮の光州神社の宮司となった。そして応召、ところが宮司であったために戦後は公職追放となり大変苦労されたと言った。

函館大火と言っても、若い諸君には記憶がないであろう。昭和九年三月二日、立待岬の下住吉神社付近から出火し、焼失家屋二二、六三三戸、死者六四八人、罹災者九二、〇〇〇人という大災害であった。

桜田先生は、万葉集については特に力を入れて教えられた。これこそ日本人の心のふるさと、万葉の歌に語り継がれる想いこそ、日本精神の源泉などと熱っぽくい口調で語られ、また正岡子規以降の日本の短歌の歴史にふれ、島木赤彦の歌や斎藤茂吉、土屋文明の短歌を熱心に語られたことを、五〇年以上たった今もあざやかに思い出す。ご本人もアララギ派の歌人として、当時すでに活躍されていたことは後になってから知った。昭和二九年九月二六日、洞爺丸沈没事故の死者一、一五五人の中に、桜田角郎先生の名を見出し、時の驚き、あの桜田先生が……。今はただ先生の御霊の安らかな

ことを願うのみである。合掌。
なお、『昭和万葉集』にはこの五首以外にも、私の知る限り先生の歌が四首ほど載っている。

足のタコと上田先生

51期(昭和24年卒) KH生

昭和一八年に我々一年三組の担任は図画担当の上田實先生でし

た。

とても真面目な先生でしたが、少し口が尖っていたからなのでしようか、先輩達は『タコ』とか『からす口』なるあだ名を献上していたのでした。

当時は戦争中で、登校時は編上げ靴、地下足袋、軍靴、草鞋以外の使用は禁止されていました。入学当初の一時間目の授業は、

担任からの「函館中学の学生生活について」の精神訓話等が自分の間続きました。

入学時のウキウキした気分もおさまった六月頃の一時間目のことでした。禁止されているはずの下駄を履いたS君が、親指に白い包帯を巻いてランコロンと教室に入ってきたのです。それを見た上田先生が「その下

駄はどうした」と詰問したところ、Sは「足を怪我しました」と言いました。先生は「足をどうした」と重ねて聞かれました。するとSは、包帯を巻いた方の足を教壇に立っている先生に向けて突き出し、「タコです」と大声で言いました。新入生が担任のあだ名を言ったのですから、教室の中は一瞬シーンとなり、先生の雷が落ち

らと思ったところ、J君のワッハッハの豪快に笑いに誘われて、クラス全員のワァーと言う笑い声に変わりました。

あの謹厳実直な上田先生の、その時の顔を今でも忘れることができません。

そのあと上田先生は、静かな声で「S、席に戻れ」と言って授業をはじめました。

同期会報告

REPORT IN THE SAME YEAR CLASSMATE

同期会報告

43 期 阪神圏の仲間に義援金
昭和16年卒 井筒 吉彦

甚大な被害をもたらした阪神大震災一四三期の仲間では神戸市と西宮市に一人ずつ住んでいて心配していたが、五日目頃にやっと西宮のT君に電話が通じ、屋根瓦が落ち、柱が傾いたが倒壊は免れたことを知った。続いて神戸のM君も同様であることがわかり、まずは愁眉を開いた。

しかし、電気・ガス・水道が全部使えず、七〇歳を越えて毎日難儀な生活を送っているだろうと、誰からということなく、東京、函館、札幌の同期会でお見舞を募る話を持ち上がった。三月半ばまでに予想以上の金額が集まり、半分以上を二人に送った。

母校百周年記念協賛会への募金も、昨年八月までに目標額を突破し、協賛会から礼状が届いた。四三期の白楊魂は健在である。

ところで、本紙六頁の本の紹介にもあるとおり、同期の家坂孝男君(ペンネーム・松前宏)が『亀裂のとき』という本を出した。ペ

ンを捨てて銃をもち、学徒出陣で戦場に赴いた著者は、敗戦後そのままシベリアに抑留され、漸く復員したとき、祖国の現実は無効率一辺倒のエコノミック・アニマルー狂信主義の妖怪が国中を徘徊していた。

この本は、やさしさと思いやり、安らぎと想いを求める著者の身辺に生じた過去の青春体験を五つの短編小説にまとめ、アラカルト風に人間模様を描いている。諸兄弟のご一読をお薦めしたい。

44 期 健康法のレクチャーも

昭和17年卒 佐藤 文三
首都圏在住の『獅子の会』の仲間(名簿登録者)は四三人。四月八日、銀座・三笠会館で開いた今年の会合には十四人が顔を揃えた。昨年の会に出席していながら、その後亡くなったのが、杉山淳、石政祐三、兼田実の三君。いずれもガンだった。

「益々の発展を」とは言えないいな・」と、乾杯もいまひとつ氣勢があがらなかった。それでも池田拓郎君が、中学一年と五年の

全クラスの集合写真のコピーを配ってくれたので、懐旧談がはずむ。どこの同窓会も、古希を迎えるの集まりには、健康法、病気のことが話題になる。

そこで、三上理一郎ドクターにレクチャーしてもらおうことにし、前立線ガンや前立線肥大などの解説に熱心に聞き入った。校歌合唱、関東一本締めでお開き。

今年は函中百年祭に併せて、函館で当日か前夜に、同期会を開いてくれれば、東京から参加したいとの意向を在函館四四期幹事に申し送った。

45 期 堂々たる五〇周年記念誌

昭和20年卒 田沼 修二
翠楊会東京支部総会は二月二四日、NHK青山荘で開催した。

函館から越田会長、札幌から酒井君も駆けつけ、二五名が参加、久闊を叙しながら懐旧談の花が咲いた。一昨年の函館での卒業五〇周年記念総会の楽しかった思い出、恩師・級友の消息など話題は尽きない。

しかし今回の主な話題は、刊行

日浅い函中翠楊会五〇周年記念誌「翠楊」のことであった。編集委員の努力と全委員の協力で「創立から旧制中学終焉までの年表抄」

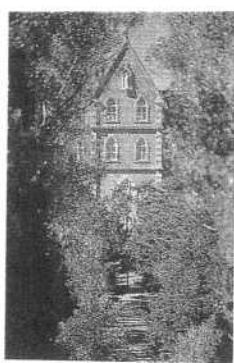
「翠楊会員函中時代の軌跡」「恩師のことば」「思い出を綴った会員寄稿文」「五〇年前卒業時に書き残した一言と当時の集合写真、そして現在の一言と写真の対比」そのほか思い出の写真集など表紙付一〇九頁の堂々たる記念誌は、会員それぞれの生涯のひとつの凝縮であり、恐らく愛蔵して子孫に残すに値する記録になろう。

酒も回り、歓談は尽きないが、老友の顔に記念誌の残る紅顔の面影を見いだしながら、散会の時間となった。

47 期 毎年四月七日は有楽町

昭和20年前期卒 松村 豊
今年も恒例の四七会が開かれ、幹事がボンコツ休修理のため入院。退院後の連絡で、開催日の二〇日前に通知という不手際もありましたが、皆さんの協力でごやかな会になりました。

例年、四七期にちなんで四月七



日開催と決めているせいもあり、今年も二一名の出席となりました。場所は有楽町・ニュートリーキョー六階の「ロチェスター」。来年も日時、場所の変更はない予定です。時間の許す方は飛び入り参加してください。

会の中で、一〇月一四日の函中創立百周年を機に「函館で集まるべ」と衆議一決。「それまでの在京幹事は松村」と押し付けられてしまいました。太田庸穂氏が各人の意向を打診した結果では、一四、五名が出るとのことです。

毎年出席し、元気にダンス三昧の生活をエンジョイしていた沖田雅彦氏が一月早々逝去されました。世の常とは言え、一年に一回顔を合わせ続けてきた級友がポツポツと欠けていくのは淋しい限りです。ご冥福をお祈りします。

期 函館で百周年前夜祭を

51 昭和23・24年卒三國比左男

五二期「あずまし会（函中どんじり会東京支部）」の総会と懇親会が四月一四日、日比谷「聘珍樓」で行われ、二四名が出席した。

また、「どんじり会」函館支部長の柴田隆一君が「百周年記念どんじり会前夜祭」（二〇月一三日）の企画を携えて特別参加し、多数参加して百周年を祝おうと檄を飛ばした。

次いで懇親に移り、この一年間、幽明異にする者がいなかった。

平成六年は四六期生にとって卒業五〇周年にあたり、昨年六月、百名を超える記念同期会を盛大に行った。パーティの前に市内観光をしたが、今回のコースに遺愛女学校の見学が入っていたのに驚いた。我々の函中時代、女学校は男子禁制の庭で、中をちよつと覗くだけでも鉄拳が飛ぶ激しい時代だった。恐らく、女学校の見学は初めてという者がほとんどだったと思う。

遺愛女学校は

一八八二年（明治一五年）に元町（現在遺愛幼稚園がある所）に東京以北最初の女学校として開校され、その後発展して、一九〇八年（明治四一年）に現在の杉並町に移転した。建物は二代目校長のミス・ハンプトンの働きで完成した。したがって一九九二年（平成二年）には創立百十周年を迎え、函中より十年余り歴史が長い。正

ことを喜び合い、いつまでも元気にこの会を重ねようと誓い合った。

期 いつまでも絆を大切に

54 昭和27年卒 杉田博子

私たちが五四期生は、毎年六月の第二土曜と決めて、関東地区同期会を催しております。本州在住の人達と北海道からの常連組（六、七名）とで、一年ぶりの再会に、学生時代に戻って楽しいひとときを過ごします。

転勤で東京を離れている人、帰ってきた人と毎年顔ぶれは少々面に建つ本館は当時のアメリカ建築様式を取り入れ、特にホワイトハウスと呼ばれる宣教師館は北海道有形文化財に指定されている。

校庭に足を踏み入れると、緑の芝生が広がり、ホワイトハウス周辺の樹木、草花、鳥たちのさえずりが我々を迎えてくれた。校舎の中は高い天井、広い廊下、明るい教室、そして昔のままの古ぼけた

入れ替わりますが、最近では定年を迎えたり第二の職場に変わったりで、東京に落ち着きはじめました。

卒業三五年、四〇年と、節目ごとに伊東温泉、京都へと一泊の同期会もしました。幼なじみと言いましようか、同じ学舎で過ごした青春時代に培われた友情なのでしようか、いろいろな面で助け合っているのを見たり聞いたりしますと、ほかの学校には見られないことではないかと思えます。この絆を深めつつ、これからの人生を送りたいものだと思います。

説「若い人」は、この遺愛女学校をモデルにした学園青春物語で、その影響もあつてかミッシェンスクールは当時の函中生にとって憧れだった。

私は、小学校から函中卒業まで遺愛の隣の静かな「みどり町通り」に住んでいた。二階の窓からはホワイトハウスが正面に見え、緑の木立に囲まれた白い洋館は、

46 期 禁断の園、遺愛女学校を訪問

昭和19年卒 渡辺保之

スチームがあり、八〇年以上にわたって今なお暖房に使われている。礼拝堂ではドイツ人の手作りによるパイプオルガンや大きなシャンデリアが目をつひいた。しばし佇むと、ステンドグラスから降りそそぐ陽光の中にパイプオルガンの響きと、賛美歌を歌う真摯な女学校の姿が目につかんでくる。映画にもなった石坂洋次郎の小

姿で体操している女学生達を垣間見ながら胸を躍らせたこともあつた。

五〇周年記念に遺愛女学校（現遺愛女子高等学校）を見学できたことは、いろいろな意味で大きな収穫だった。同期の加茂勝郎君の尽力と、忙しい中案内説明していただいた同校諸先生のご好意によるものと感謝している。

いつも「来年も、一人も欠けずに再会しましょう」と解散しますが、友情って良いものだなあ、と痛感いたします。

期 会費納入も協力的です

63 昭和36年卒 小林嘉則

阪神大震災では、六三期の友人にも被災者が出て、なかでもご主人を亡くされた方には慰めの言葉もありませんでした。急遽二月初めに東京周辺の仲間が集い、気持ちだけでもと思い、お見舞い金を送りました。六三期会では毎年七月初め（今

年は七月八日）に東京同期会を開催し、十一月には関西同期会に合わせて旅行会を、一月から二月にかけては新年会をかねて、その年の会の方針を決めたり、同窓会の様子を報告したりと、年に何回かの集まりを持つようにしています。特に今年は、百周年に合わせ、函館同期会もあり、それも楽しみです。

あなたは「ポプラ派」？

あなたは「はくよう派」？

白楊ヶ丘同窓会を「はくようがおか：：」と呼ぶ人と、「ポプラがおか：：」と呼ぶ人がいます。「どつちでもいいじゃないですか」というのが東京支部の鷹揚な姿勢ですが、どういう訳か古い層の人ほど「ポプラ：：」派が多いようです。

文によると、ポプラ（学名・ポプルス）は「公衆の木」の意味で、風にそよ音が群衆のざわめきに似ているため、ということとです。そうした民主的イメージから、古い層は白楊を「ポプラ」と呼び、逆に新しい層は伝統的感覚で「はくよう」と呼ぶのではないかと思います。

手元の「小学館・言葉」で調べると（岩波・広辞苑でなくて恐縮）、ポプラは北欧を原産地とする落葉高木のセイヨウハコヤナギの通称で、白楊は「山鳴らし」（「ハコヤナギ、マルバヤナギ」の慣用漢名とあり、若干和洋の違いがあるようですが、「ポプラを白楊樹とも書いた」と過去形の記述もあるので同じと考えて良いでしょう。

ポプラがヤナギ科であるなら、「柳に風」「柳は弱し、されど外の木を縛る」「柳に雪折れなし」「柳腰」：：などであるように、「白楊魂」とは、美しさの中に柔軟性と強靱性を併せ持ったたかな根性と推察できますが、諸先輩のご高説をお聞かせいただきたい。ちなみにポプラの花言葉は「勇氣」とのこと。

三七期・浅野増太郎先輩の一

【編集部・片岡進（七一期）】

会費納入促進などを申し合わせ

事業計画、予算などを決める平成七年度の評議員会が、四月二〇日、今年の親睦大会会場と同じアルカディア市ヶ谷(私学会館)で約四〇人が出席して行なわれた。

午後六時三〇分、軽い夕食をとってから会議が始まり、まず菅原副支部長から同収支決算について説明が行われた。関連して函館の委員会に出席した三國理事から百周年記念事業の経過状況が報告され、また、残余テレホンカードの利用促進、新しい評議員発掘等について質問、意見が出た後、田沼監事からの会計監査結果報告を受けて承認された。

続いて、同じく菅原、真船副支部長から七年度の事業計画、予算案が提案説明され、原案どおり承認された。この中で「東京白楊だより」十八号については、小林副支部長、片岡理事の企画編集で内容の刷新充実をはかることとし、寄稿、座談会協力等の要請があった。

大阪・松岡氏、二日酔いでも優勝

白楊ヶ丘同窓会東京支部ゴルフ部会(ポプラ会)の第四回コンペが、平成七年五月十八日(木)、快晴の「G M G八王子」で行なわれました。

《同窓会に新しいイベントを》とスタートしたゴルフコンペも平成五年十一月に第一回(G M G八王子)、六年四月に第二回(源氏山G C)、同月に第三回(白鳳C)と回を重ねて四回目、第一回目と同じ二上支部長のホームコ

を切ったが、支部事務所の会議室が使えなくなったこともあって現在は休止状態。各種の事務処理も滞りがちの状況です。役員の打ち合わせなどに、ほんの少しのスペースを、格安で提供してくれる同窓の有志がいましたら、ぜひご一報ください!

また、毎年の事ながら親睦大会の案内を会員に送付するためには、各期の評議員の協力が、もっとも大事な仕事になっております。

小林嘉則(63期・副支部長)

会員の多い期になりますと、郵送する作業もけっこう大変になりますが、多くの会員の方々に同窓会を理解していただくために、ぜひ御協力をお願い致します。

先輩が優勝したこと。「飲みすぎで調子は今ひとつ」と言いながら、九三のスコアはお見事。また、初参加ながら紅一点の六〇期・松田栄美子先輩はゴルフキャリア十分。一〇〇を切りながらハンディ十六・八と出たため上位入賞はなかったものの、今後のポプラ会女性リーダーとして活躍してもらいたいと思います。

参加最年長で大健闘の五一期・三國比左男先輩は、このポプラ会に引っぱり出されてからやるようになったということですが、さすが甲子園出場を果たした函中野球部で培ったスポーツ感覚は年齢(六五歳)を感じさせず、今後が楽しみです。

老若男女の先輩後輩が、一日和気あいあいと過ごせるのも同窓会コンペならではのこと。そしてゴルフもさることながら、故郷函館を語り合えるこの場合は、ほかにかえ難いものがあります。

白楊ヶ丘同窓会東京支部 平成6年度決算&7年度予算

【収入の部】

科目	6年度決算	7年度予算
年会費収入	2,677,000	2,700,000
寄付金収入	60,000	60,000
利息収入	98,031	50,000
大会費収入	1,392,000	1,320,000
収入合計	4,227,031	4,130,000

【支出の部】

事業費	2,069,803	2,370,000
会報印刷費	410,970	420,000
会報送料	382,680	400,000
会報諸費	37,136	100,000
大会費	1,038,058	1,100,000
大会諸費	180,650	300,000
大会準備費	20,313	50,000
運営費	2,069,803	2,370,000
消耗品費	145,118	150,000
印刷費	187,460	200,000
通信運搬費	238,027	250,000
会合会議費	22,130	100,000
理事会費	46,378	100,000
評議員会費	101,182	200,000
本部派遣費	206,580	200,000
交際費	30,580	50,000
事務所諸費	300,000	300,000
雑費負担費	50,820	60,000
その他	0	150,000
雑支出	199,262	0
支出合計	3,597,340	4,130,000
差引収支残	629,691	0



次回(十一月)の予定ですが、函中同窓のゴルフ愛好者は、ぜひごぞって参加されることを希望します。同窓会事務局(〇三・三三五二・六二八一)または部会世話人(小林〇三四二四・六八五四FA X)までご連絡ください。その都度ご案内をお送りします。

にこやかな表情に闘志を秘めて、プレー開始前の記念撮影。



会員短信

ひとこと
メッセージ

◇今井欣悦(28期・大正15年卒)

同期会は毎年春秋二回、新宿東口の「松澄」に集合。小生のほか加藤修一郎、田島助太郎、島原健一、四ッ柳高茂と少人数なれど、明治生まれの意気盛んです。

◇村上 環(33期・昭和6年卒)

人生八〇年時代の仲間入りをし、持病と闘いながら堪え忍んでいます。函館の同期会(二六昭会)には毎年出席していますが、東京支部からは佐々木五郎さんと二人だけです。

◇秋浜晴彦(36期・昭和9年卒)

「ほらたけの会」と言っても、毒キノコを食べる会ではありません。ホラを吹く集団でもありません。「火柱のはためく峰も……」校歌作曲者、「ほら武」と函中の名物音楽教師・故酒井武雄先生を偲んで生まれたグループで、古今の名曲をハモリながら、青春と人生を語る、世代を越えた音楽好きの集まりです。

現在、五四期の杉田博子さんから七五期の桑原洋子さんまで、二二名ほどが顔を連ねてい

本紙のポブラ会第一回コンペ報告記、懐かしく拝見しました。昨年九月四日、ゴルフプレー中に体調を崩して入院しましたが、復調の上、再びグリーン上でまみえたいと思います。

◇三国栄徳(36期・昭和9年卒)

六二年前、函中蹴球部に在籍、今日のJリーグの爆発的人气に驚嘆している。

◇林 正純(40期・昭和13年卒)

会費未納者が七五%もあるとは驚きです。納入率増加のための改善策はないでしょうか。また、年一回の会報ですが、せめて年四回の四季報にすることは不可能でしょうか。東京支部存在の魅力が会員にとって少しでも増大するような対策を種々ご検討いただきたく切望します。

◇浦田常治(44期・昭和17年卒)

「あじさいの色の星の雨」新作歌謡発表会参加(平六・七・九)。「ひばりの歌に誘われて」、新しい

日本の歌発表会参加(平六・九・二九)。ご希望の方に楽譜を差し上げます。

◇浅野 博(47期・昭和20年卒)

見納めに、五〇年ぶりの函館を見てみたい。その時は百周年の記念会館を利用してもらいたいものです。利用手続き等、決まり次第早めに教えてください。

◇山下二郎(52期・昭和25年卒)

東京支部親睦大会には一度も出ていませんが、機会を見つけて是非出たいと思っています。静岡県内にも同窓生が案外いるのでは、とも思います。

◇池田克彦(55期・昭和28年卒)

母校百周年を機に、函館発展の策を真剣に考えてみませんか。訪ねる度に沈滞感があります。不況のせいだけではないと思うのです

◇加藤秀一(57期・昭和30年卒)

一〇月の百周年記念式典には是非参加したいと思ひ、楽しみにしています。

◇伊藤紀子(60期・昭和33年卒)

髪・目・耳・足と確実に老化してきていますが、会報を読む時は十代の頃にタイムスリップして心が若やぎ故郷が近くなります。新校舎の威容にはびっくりしました。旧体育館を掃除したことを思い出しました。

◇田所ナミ子(65期・昭和38年卒)

いつも会報等のご連絡を楽しみにしています。親睦大会にはなかなか出られなくて残念です。

◇中川 真(67期・昭和40年卒)

編集ご苦労様。毎回会報を楽ししく読んでいます。

◇河村 裕(69期・昭和42年卒)

広島アジア大会の自転車競技部門でロシア語通訳のボランティアをしてきました。カザフスタンの選手が活躍したので出番は多く、この経験がロシア語のプロの使い手への道を示してくれたような気がします。

います。連絡・相談は六三期の土橋道子さん(電話〇四八―八六三―九八二七)までお願いします。

ほらたけの会で歌とおしゃべりを

69期(昭和42年卒) 河村 裕

アカペラの美しいハーモニーに酔ってみませんか。歌うばかりではありません。楽しいおしゃべりや喉を潤す時間もたっぷりあってありますから、合唱の経

験がまったくなくても、気軽に参加できます。どうぞ一度のぞいてみてください。月二回ほど、日曜の午後が集まっています。会費は出られた時の五〇〇円だけです。

練習の場は、今のところ東急新玉川線(管団半蔵門線)・池尻大橋駅の近くにある六四期の佐古則興さんの職場をお借りして



◇古旗邦夫(72期・昭和45年卒)

岩手県内でも函館出身者の巴会があり、年二、三回集まって楽しくやっています。

◇神 正史(83期・昭和56年卒)

都立足立高校で教鞭をとっています。同窓会の仲間であつた関係の方がいましたら交流を持ちたいと思っています。

◇佐々木正城(86期・昭和59年卒)

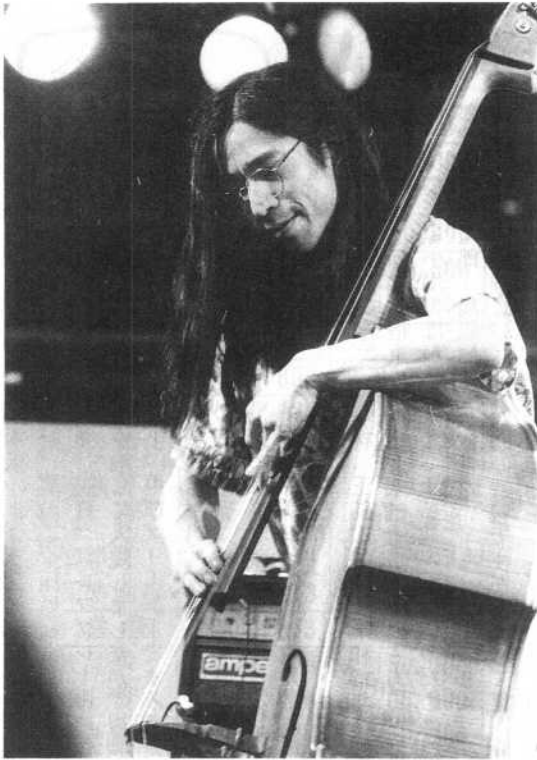
同窓会の運営を全くお手伝いできず申し訳ありません。私の方は、仕事、勉強、スポーツ、趣味と元気にやっています。いずれ大会にも参加させていただきたいとおもっています。

会費納入にご協力を

この会員短信(ひとことメッセージ)は、会費納入の際の郵便振替用紙備考欄や親睦大会出欠ハガキの欄外に書かれていた言葉をまとめたものです。近況報告、仲間への伝言、つぶやき、泣き言……何でも結構ですから、会費納入の際に一言書き添えて送ってください。

ところでこの会費、毎回愚痴をこぼして恐縮ですが、東京支部登録会員(約四千人)の四分の一ほどしか納めてもらえないのが実情です。年間三千円ですから、ほとんどの方が「ほかの用事に紛れて、ついつい送りそびれてしまった」ということだと思ひます。でもそこを何とか思い直して、同窓ネットワークの充実と活性化のために、今年忘れずに協力下さるよう重ねてお願いします。

(事務局)



第19回親睦大会

9月15日、アルカディア市ヶ谷で

特別企画はジャズトリオ演奏会

◆シャボン玉ホリデーの感動

73期(昭和46年卒)米木康志
 あれは確か、小学六年か中学一年の頃だったと思う。TVの画面にクレイジーキャッツの犬塚弘と、中尾ミエの二人が写っていた。犬塚弘はコントラバスを、中尾ミエはマイクを持って、

「何が始まるのか」と思っていると、彼がボンボンボンと、四小節イントロを弾いて、彼女が歌いはじめた。曲はフライ・ミー・.....

「心のオアシス」白楊ヶ丘同窓会東京支部恒例の第19回親睦大会が、九月十五日(金・祝日)、市ヶ谷駅前前の「アルカディア市ヶ谷(私学会館)」で行われる。

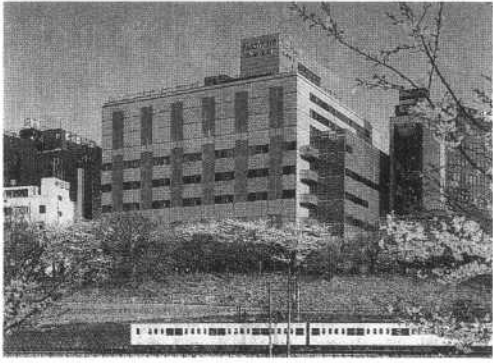
今年(函中創立百周年)式典・祝賀会が十月十四日(土)に函館で行われるため、いつもより一カ月繰り上げての開催。また、祝日ということ(午後二時三〇分)から特別企画、せつかくの一日を有効に使用

トウ・ザ・ムーン。

ピアノではなく、ベースの伴奏だけで唄うことの新鮮さ、そして、ベースが一小節に四拍、音を出さずだけの単純さ、音を出しつづけることでのリズムのスムーズな感じ、コントラバスの持つ音の深さ、やわらかさ.....などに心を奪われた。

と言っても、すぐにジャズのファンになったわけではないが、私の心の奥底に、しっかりとこのうという趣向だ。

特別企画は、ジャズ・ベイシストとして活躍中の73期・米木康志氏【写真】を中心としたジャズトリオ演奏会。オールドファンにも心ときめくスウィング・ジャズが楽しめる。母校百周年の東京前夜祭として、たくさんの仲間で大いにスウィングしましょう。



日の出来事がしまわっていた。今でも、「どうしてジャズ・ペーシストになったの?」と聞かれる

と、あの日のTV番組「シャボン玉ホリデー」の、あの場面を想い出す。

犬塚さんには、感謝の気持ちをこめて、私のCDを送ろうと思いい、三年ほど前、知り合いから氏の住所を教えてもらったが、筆無精のせいでまだ送っていない。いづれ手紙を出そうと思っている。

【トリオ・メンバー紹介】

◇ベース 米木康志(42歳)

金堀小、的場中を経て、昭和46年函館中部高校卒業。立教大学在学中から演奏活動をはじめ、本田竹広トリオ、北海道バンド、ネイティブ・サンなどで演奏活動中。

◇ピアノ 元岡一英(45歳)

北海道伊達出身。向井滋春グアルカディア市ヶ谷(私学会館) / 〒102 千代田区九段北四・二・二五 / 電話 03・3261・9921 (代表) / 市ヶ谷駅 徒歩二分 / JR中央線・営団有楽町線・都営新宿線

ルーブ、チコ本田、北海道バンドなどで演奏活動中。

◇ドラムス 本田珠也(25歳)

東京都出身。ネイティブ・サン、本田竹広トリオ、辛島文夫トリオなどで演奏活動中。

当日の演奏予定曲目は、ベニー・グッドマンの「メモリーズ・オブ・ユー」ほか。

編集後記

「東京白楊だより」の紙面を読みやすく刷新しよう、と考えた中で、大きさを今までのB五判からA四判に変えました。企業でも役所、学校でも書類を国際規格のA四サイズに統一する動きが進んでいますので、我が会報も創立百周年を機に思い切って切り替えた次第です。「今までのものと一緒に綴るのに具合が悪い」と嘆く向きもあるかも知れませんが、これも時代の流れです。慣れるまで暫くご辛抱を.....(片岡)

- 発行 白楊ヶ丘同窓会東京支部
- 発行人 二上 達也 (52期)
- 編集責任 小林 嘉則 (63期)
- 企画編集 片岡 進 (71期)

【支部事務所】

〒160 新宿区新宿1-14-6 御苑ビル
 スパース販売(株)内
 TEL・FAX 03-3352-6281